

そうぜんじ便り

19世 俊諦和尚筆

第145号

令和3年 お盆号

臨濟宗 宗禪寺
建長寺派

住職 高井和正
閑栖和尚 高井正俊

羽村市川崎2-8-20
TEL 042-554-1276
FAX 042-578-3525

七月十三日～十六日の期間をお盆(盂蘭盆)といえます。お亡くなりになったご家族の方がご自宅に帰って来ると云われている期間です。お寺ではお盆中に施餓鬼法要を営み、供養を行っています。

施餓鬼法要へのご参列は本年もコロナのため、新盆をお迎えする関係者のうち、ご希望される方のみとさせていただきます。

施餓鬼大法要

七月十五日(木)

◆十三時 開場・受付開始

◆十四時 盂蘭盆供養

施餓鬼大法要

法要後にお寺からご挨拶

- 新盆以外の方は受付で供養封筒をお出しいただき、施餓鬼幡をもって墓参をして下さい。
- お盆期間中、施餓鬼棚を本堂前の庭にお出しします。墓参の折に水向け供養をして下さい。
- 先祖代々等、盂蘭盆供養のお塔婆を随時受け付けております。一本三千元です。
- 新盆をお迎えする皆様には、お申し込みにかかわらず、新盆供養のお塔婆を一本用意致します。
- お布施(施餓鬼供養料と付届け)は同封の封筒の通りです。ご協力の程よろしくお願致します。
- お盆の早朝坐禅会がございます。七月十三日～十六日、毎朝六時から七時です。

儀式への参加は、本年新盆をお迎えする皆様のみとさせていただきます。

- ◆儀式参加者の皆様は、玄関で手を消毒、マスク着用でご参加いただけます。

13時 受付開始 儀式にご参列される皆様は受付をお願い致します。

14時 施餓鬼大法要

- ・施餓鬼和讃を参加者全員でお唱えします。
- ・儀式中、水向けと施米(餓鬼に水とお米を施します)をしていただきます。

15時 法要後に和尚と総代様からの御礼のご挨拶があります。

- ・施餓鬼幡(供養の目印)をもらってお墓参りをして下さい。

式次第
施餓鬼大法要

羽村とうろう流しは、コロナの情勢を鑑みて、本年も中止となりました。

水族館劇場宗禅寺公演

『アントロポセンの空舟』 円成を迎えて

五月十四日から三十一日まで全十四公演。四月一日から劇場設営に入り、六月十五日の劇場完全撤収までの二カ月半、劇団・水族館劇場の皆様による全身全霊の野戦攻城が無事に閉幕致しました。期間中、1025人の観客を動員。コロナ感染者ゼロ、怪我人ゼロの大団円となりました。清流多摩川をのぞみ、

玉川上水ゆかりの、水の町、羽村にて根を下ろした水族館劇場。今回の大団円は彼ら自身の努力ももちろんですが、何よりも劇場を構えた第二駐車場の近隣にお住いの皆様方から、寛大なるご理解とご協力の賜物と深く感謝を申し上げます。また、会期中にご懇篤なる陣中見舞いをお持ちくださいま

した皆様方にも厚く御礼を申し上げます。ここに劇団を代表致しまして、代表の桃山 邑さん、この地にご縁を下さった伊藤裕作さん、主演の千代次さん、劇場設営棟梁の秋浜立さんからのメッセージを掲載させていただきます。水族館劇場からの御礼とさせていただきます。

大いなる存在の連鎖

水族館劇場代表 桃山 邑ゆ

玉川上水の取水堰にほどちかい羽村が生んだ作家、中里介山の生涯を賭した大乘小説『大菩薩峠』の最終巻に願人坊主が阿呆陀羅經のような祭文をうなるくだりがある。まるで夢野久作の『ドグラマグラ』と呼応するように。無間奈落をさまよう机竜之介とあらゆる階層のひとつひとつの物語は、介山と同時代を生きた、宮澤賢治（今回のお芝居でも賢治作の「大菩薩峠の歌」をうたう場面を登場させた）や南方熊楠（みなかたたくまぐす）（熊楠思想の根幹である森の曼荼羅は未完に終わった小説世界そのもの）を引き寄せた。明治近代への世のうつりかわりを嘆くような、怒れるような作者不明（小説のなかでは）のかたりだった。



また、来年お会いしましょう。

ほくもある意味、構成を無視し、夢と現を思いつきのように混在させる曼荼羅絵巻のようなチャンバラ小説が大好きだ。いつかその後の机竜之介を描きたいと考えている。この世のような夢とも思える物語は大団円、無人島に上陸した男の「ちえッ、キリシタン！」という侮蔑的なせりふで唐突に終わりを告げる。

七年ほど前、ほくは人間関係のどん底にいた。「そして私も人生の道のりのなかばを過ぎて、暗い森の中へ入って行った。」(『ジョナス・メカス』森の中で)村田郁夫記などと書くと閑栖和尚に「人到底などない」と嘯われそうだが、たしかにあの時のまわりの情勢は険悪であり「どん底」と呼ぶべき破綻だった。深い井戸に墜ちたほくをひきあげてくれたのは伊藤裕作と、三重・芸濃町に暮す、彼のうぶすなの生活人(たつきびと)たちだった。

今回もまた伊藤さんのツナギで宗禅寺と出会うことができた。壊滅的なせりふ記憶術とはうらはらに、まことと阿弥陀さまのような存在である。感染症拡大下の野戦攻城を決めたのはいいけれど、お寺の英断になんとか応えなければ、という気持ちでプレッシャーになった。覚悟はしていたが騒音苦情は来る。けれども都心のように匿名電話を警察に鳴らすのではなく直接木戸に怒鳴り込んで来るので、誠実に対応できた。こんな場面でもひとは基本対面がいい。これも芝居の持つ可能性のひとつだから。檀家の総代のかたがたからは身に余るお祝



羽村・福生の皆様、2ヶ月間ありがとうございました。

いをいただいた。すこしづつ空気が和んでくる。なによりほくたちを支えてくれたのは、もつとも近い(もつとも騒音被害のあったであろう)住宅のひとびとが連日の差し入れをしてくれ、かりそめの宿りに過ぎない、まれびとをご近所として仲良くしてくれたことだ。また来てくださいと、たくさんの方に励まされた。芝居の出来不出来をこえて嬉しかったのは、演者⇌観客という垣根をとりはらった真情あふれる関係の

縁がうまれたことだった。

テネシーウィリアムズの名作『欲望という名の電車』には主人公ブランチの宝石のようなせりふが鏤められている。「真実なんて大っ嫌い!たえサーカス芝居でも、どんなにかさま舞台でも。嘘もまことになるものよ。ただ私を信じさえすれば」そんな確信だけをたよりに戒壇巡りのような手探りで書きすすめられた台本だった。いま全てを春以前に戻し、つくづく感慨にふけ

ることがある。この二ヶ月半の野戦攻城は水族館劇場が仕組んだものではないということ。お寺でもないだろう。おそらく人智を超えたなにかが顕現したとしか思えない。大いなる存在の連鎖が、人間はまだまだ捨てたものじゃない、という不知火の螢火のような、あえかな希望をともしてくれた。お寺を護ってきた仏さま、ほくたちを無事に導いてくれて、ありがとうございます。

縁が繋がり円となり

劇団員・作家 伊藤 裕作

十七歳の時、寺山修司の「天井桟敷」の旗揚げをテレビの深夜番組「11PM」で知り、東京へ行こうと決意、家出同然で上京したのが1968年2月。それから50数年の時が流れた今年の5月、わたしは、臨済宗建長寺派宗禅寺の第2駐車場に建った仮設の野外劇場に役者として立っていた。

もちろん、人生の全てが順調だったわけではない。思い通りにいかず、挫折したことも多々あった。だが、そうした時、思いもよらない人との出会いが、暗夜行路のほの行き先をバツと照らしてくれた。

大学を7年掛かって、卒業したはいいが、どこにも就職できずに途方に暮れていた時、たまたま出向いて知り合いになったピンクサロンのお嬢から、

「わたしたちの話聞いて、週刊誌に書けば、食べていけるんじゃないの」

そんなアドバイスを受け、その話を雑誌

社に売り込んだところ、とんとん拍子で風俗ライターの道が開け、以降30年間、そうしたネオン街で生きるお嬢たちの生の声を、世の人々に伝える風俗ライターとして生きてくることが出来た。やがて、そうしたお嬢に対し、

「お前たち、そんなことしていると地獄に堕ちるぞ」という声があることを知り、それは

おかしいと思い、風俗お嬢のことを書いた「娼婦小説」を徹底的に勉強し

ようと法政大学の大学院に社会人入学、これを研究した。その学びの中で、神奈川県立金沢文庫の元文庫長、高橋秀榮先生の教えを受け、先生から、

「伊藤さん、お坊さんになれば」というアドバイス

を頂き、実家の墓守をするために名古屋にあった浄土真宗系大学の専科に入学、親鸞聖人の教えを学ぶ。2年かけて、この専科は終了したのだがさまざまあって、結局僧



侶になることは叶わなかった。その代わりに故郷の三重県津市芸濃町椋本の東日寺に、私が古くから、この劇団こそ昔の村芝居の流れをくむ役者徒党の集団であると思っていた「水族館劇場」

を2016年と2018年に招き寺の境内に劇場を建てて公演を打った。それから2年が

経ち、前述の高橋先生が親しくされていた鎌倉・建長寺の元宗務総長、高井正俊和尚に、2020年、コロナ禍の中で新宿・花園神社境内で準備していた「水族館劇場」の公演が中止せざるを得なくなっていた頃から懇意にしていた。その後、和尚から、和尚の自坊、宗禅寺の駐車場を使つての公演の話をしたとき、

その御縁で、この春「水族館劇場」は、ご当地・羽村で野外芝居の幕を開けることが出来たのである。

縁が縁に繋がり円となり○(まる)。わた

し、及びわたしたちはこの御縁の連鎖を大切に参ります。
 そんなわけで、これからも、よろしくお願いたします。

建て込みと芝居

劇団員・劇場設営棟梁 秋立 立

水族館劇場は役者自らが劇場を建てます。宗禅寺の駐車場で建て込みを始めたのが肌寒い四月はじめ。何もない敷地。周りにはお寺が植えたばかりの様々な若木があるばかり。さぞ周りの方々は驚かれたでしょう。突然ニヨキニヨキ何かが建ち始めるのですから。僕は建築現場で使う足場資材を使って劇場を建てていきます。建設中、多くの方々が声をかけてくださいました。本当に僕達の力になりました。稽古の時も公演が始まってからも。近隣の方々には感謝の言葉しかありません。

最初の頃、坐禅に誘われて参加しました。和尚さんから「いい息抜きになったのでは」と言われましたが、それ以上のものを得た気がします。初めて地元の人と話をかわせましたし、このお寺で芝居をやることを考えさせられたからです。例えば役者は感情をむき出しにします。怒りや悲しみを。でもそれだけではない。もつとその先があると僕は思っています。例えば僕達は人様の敷地で芝居をやらせてもらいます。でもただ借りるだけではない。その場所ですぐ人とつながっていくかという先がある。全て

が無になる瞬間をみたい。そのために多くの人と縁を結びたい。どこかお寺の座禅と通じるものがあるのかなのか……と。

来たときは冷え込んだのに夏のような暑さの中の解体作業、劇場は跡形なく消しざりました。気づけば周囲の若木はだいぶ大きくなっていました。お寺の皆様、本当にありがとうございます。

由菜ちゃんと颯汰君の熨斗紙

劇団員・宗禅寺公演主演 千代次

初日を開けた頃、色々な方々に頂いた差し入れの中に、芝居に出るインコを「見せて下さい」と、よく遊びにきていた姉弟からのお菓子を届けました。なぜ分かったかというところ、由菜・颯汰と書かれた立派なし紙がかかっていたからです。親御さんが書かれたのでしょうか。それとも「おじいちゃんね、このチラシには『怨』という字があるから、恐いものだろうって云うの」とのことながら、でも、「だから観に行かない方が良く」と、二人を止めることはなかった。おじいちゃん、が書かれたのでしようか。どこの馬の骨ともわからない私達に、なんて丁寧な……あなたかな礼儀を感じ、胸にジンと来ました。

それから日々が過ぎ、千穂楽を迎えた日の事です。思いがけず二人とおおあちゃんからお手紙が届きました。本番直前でしたが、皆中身を知りたい！というので、この芝居をつくり上げた全員が囲む中、封

を開け読み上げることになりました。由菜ちゃんはきれいな字で「すごく面白かった。勉強になりました」颯汰くんは力強い字で「また劇をみたい！」と書いてくれました。孝代様は「今の日本の繁栄の犠牲となられた多くの命、そこに光を当てられた、アントロポセンの空舟、素晴らしかった……明日から寂しくなります」と……。思わず胸がこみあげました。

この二カ月半の長い間、宗禅寺様はじめ、多くの方々から申し訳なくなる程の様々な励ましを頂きました。

本当にありがとうございます。また、お会いできますようお願いしながら、夢の島のゴミの中に戻ります。



水族館劇場

おいでいただき
ありがとうございます

閑栖任職 高井 正俊

令和三年春、四月五月の二カ月、宗禅寺の駐車場で水族館劇場の大公演が催されました。来演して下さった劇団員の皆様、又、御来場下さったお客様方、そして暖かく見守り応援して下さいました近隣のお家の皆様方に、それぞれ深く感謝し、ありがとうございます御礼申し上げます。

この劇団との縁は、私が鎌倉建長寺で主催する鎌倉禅研究会の応援団長的存在である、元金沢文庫長の高橋秀栄先生の存在があります。高橋先生の法政大学の大学院の教え子に、作家の伊藤裕作氏がおられ、昨年の研究会に伊藤さんがおいでになり、自分の所属する劇団、水族館劇場のことを面白おかしく紹介してくださいました。今年はコロナで新宿花園神社での公演が直前に中止となったこと、今後の公演場所がみつからないこと、そして経済的な部分で困窮していることを切々と説明して下さいました。そのことが気になり、後日伊藤さんに寺の駐車場が空いていて、みんなが使える建物も二棟ありますがいかがですか？と、申し上げました。しばらくしてから、桃山代表や秋浜さん、千代次さんがお寺においでになり、現場を視察。使わせていただきたいとの連絡が来るまで時間はかかりませんでした。

宗禅寺がある川崎村は一村一ヶ寺で、支えて下さっている地域の皆様のまことまりがとてよく、春と秋にはそれぞれ春の文化展、薬師如来大祭が、地域や檀信徒あがての協力の下、盛大に行われています。そして近年、寺の隣接地に一挙に三ヶ所の駐車場が確保でき、駐車場だけでも四ヶ所、そして寺の保有する未使用の建物が二棟あります。寺は文化の発信地がモットーで、この駐車場や建物をなんらかの形で文化的な活動に活かしていかないかと、いつも思案してまいりました。そこに降ってわいたような劇団の公演話。しかも、劇場の設営から諸次第すべて自分たちですすとのこと。こんなありがたい話はないということ、このコロナ禍でも話しはトントン拍子に進みました。

このコロナ禍で、宗禅寺主催の二大行事の文化展もお薬師様の大祭もお休みで、なんとも歯がゆく、もどかしい気持ちでしたが、おかげさまでこんな素晴らしい演劇イベントがやってきました。コロナのおかげといっているのですが、まさにコロナがもたらしたものでした。

開催にあたっては、いろんなことを考えました。

- ① コロナ感染が蔓延した場合、開催は不可能になるだろうこと
- ② 駐車場周辺の住宅にお住いの皆様からご理解を得られるかどうか
- ③ 東京都からの演劇イベントの中止勧告がでる可能性があること
- ④ このコロナ禍では積極的に行事を告知し、多くの方々においでいただく方法は難しい

ということなどなど、準備期間中から公演終了までずっと心配し続けてました。近隣住民の方々には、2回3回と一軒一軒挨拶に回り、招待状をさしあげるなど、その時その時で、出来る限りの対応は致しました。クレームとしては、音がうるさいという電話が一件、市役所への騒音通報が一件、劇場への直接の抗議が一件、警察署への問い合わせが一件、都合四件でした。おかげさまで十四日間の公演は予定通り無事に終了することができました。

そうした心配事の一方で、良かったこと、有難かったこともありました。

① これまでのお寺の活動にはなかった新鮮な行事が増えたこと。来年も公演が決定しています。できれば五年はやって欲しいなと思っています。

② 演劇の在り方を教えられたこと。今回、ゲネプロ(通し稽古)も含めて五回、観ましたが、普通の演劇は初日から完成されたものを継続するのですが、この劇団は脚本も舞台装置も日に日に変わっていきます。初日と最終日では全く違うほど変化しています。桃山座長さんがリヤカーを引いて、地方公演をこなしていく中で、現在の形になったのでしようが、ことによると演劇は役者や舞台作りの裏方さんが工夫をして、より楽しい舞台、より劇的な演劇に日ごとに深化していくのが本来の姿なのではないかと思っていました。基本的な演劇のあり方を学ばせていただきました。

③ 観客の皆様が演劇の劇場のスケールの大

きさ、舞台装置の巧みさに度肝を抜かれ、感心されたこと。ストーリーは複雑な部分もあり、完全に理解することが難しいようでしたが、皆様好意的に楽しく見て下さりました。固定のファンの方がたくさんおられることも納得させられました。年に一度見ないと、なにか落ち着かなくなるのではと感じました。

④ 寺からの呼びかけ（貧乏劇団なので差し入れ大歓迎）もありましたが、多くの方々から援助していただきました。ありがとうございました。

⑤ 宗禅寺は川崎地区が中心でしたが、これからはこの劇団を通して、羽村、福生、西多摩と広範に文化的な行事を浸透させていくことが必要であること。

⑥ 予想もしなかった、若住職の和正さんが、農民の役として後半、何回か出演させていただきましたこと。私にはとても無理ですが、若さというものが、エネルギーを感じました。

⑦ 地元メディア、西多摩新聞や、西の風そして多摩ケーブル。さらにはNHKで取材報道していただきましたこと。

結果的には良いことがたくさんありました。今回の公演で十四日間で1025人を動員。皆様方のおかげで、大福なく無事に宗禅寺に野外劇水族館劇場がやってくるのが終了できました。来年も五月頃公演が予定されています。皆様の御来場をお願い、宗禅寺として御礼のご報告させていただきます。

令和三年五月十二日

4月8日 釈尊生誕日
花祭り法要



四月八日、お釈迦様の誕生日に花祭りをささやかに挙行致しました。御詠歌講の皆様が久しぶりに集まって下さり、本堂正面の外でお勤めを致しました。ここ数年は箏の演奏会と花の展覧会を行って参りましたが、コロナのため今年もできませんでした。また情勢が落ち着きましたら盛大に行いたいと思っております。



お寺でいきいきヨガ
始まりました

毎月第一、第三木曜日、午前十時〜十一時の一時間、ヨガ教室が始まりました。お寺の本堂で園部多恵子先生がご指導して下さいます。

お寺でヨガ教室が開かれていることが多くありますが、坐禅はそもそもヨガから生まれてきたものです。現在日本で流行しているヨガは、宗教的な部分を排除し、体を調えることに重点を置いているのではないかと思えます。

すでに多くの皆様にご参加いただいています。初心者、高齢の方でも安心してご参加できますので、一度お越しただき、体験して下さいると有難いと思います。参加費は一回500円です。



文庫長だより 島田 秀男

山本茂美の『あ、野麦峠』には、次の糸ひき唄があります。

工場つとめは監獄つとめ
金のくさりがないばかり
籠の鳥より監獄よりも
製糸つとめはなおつらい

『あ、野麦峠』は、明治時代に岐阜県飛騨地方の工女が岡谷などの製糸工場で働くために「野麦峠」を越えて働いていた女性三百数十人に取材して著したルポルタージュです。

昭和五四年(一九七九)にはルポに登場する糸引き工女、政井みねを大竹しのぶが演じた映画「あ、野麦峠」が公開され、大ヒットになりました。

出稼ぎの製糸工場で結核になった主人公のみねが、兄に背負われ故郷の飛騨へ戻る途中、信州との境の峠で「ああ飛騨が見える」とつぶやき、息絶えます。そのシーンは、病気にかかれば家族に引き取らせるといふ会社の非情な一面とあわせて、観客の涙を誘いました。

明治から大正、昭和にかけて、羽村では養蚕に力を入れました。特に明治の終わりから大正にかけては、その最盛期でした。繭の生産をはじめ、製糸業も盛んで、明治

三七年(一九〇四)清水製糸工場の設立をはじめ昭和初期までに六つの工場ができました。川崎には、中根製糸工場がありました。

明治四四年(一九一一)に設立した並木製糸工場で働いていた人(明治四三年生)の聞き取りによると、糸引き工女は六〇人から最大で一二〇人、出身地は奥多摩、青梅、南多摩郡、神奈川県相模原、山梨県と多方面にわたっていました。景気のいい時は、人手不足から青森方面から一〇〇人からの工女が雇われて来たといえます。

工女は一年契約で、二月半ばから十二月二九日までで、小学校を卒業すると同時に働きに来ていた人もいたようです。契約金は二、三円で、賃金は熟練者では一年の最高が一、二〇円から一三〇円になりました。当時の賃金と比較すると、相当な金額で、一家を支える貴重な稼ぎ手であったのです。

労働時間は、朝五時から夜八時半までの長時間労働でした。休みは祭日や第一、第三日曜日しかなかったようです。糸引き工女は、寄宿舎で寝泊まりして、十畳の部屋に六人、最初のころは一枚のふとんに二人で寝ていました。

『あ、野麦峠』に登場するような過酷な労働環境の中で働く悲惨な工女の姿は、聞き取りからは得ることができませんが、一四歳のときに八王子の片倉製糸工場に勤めた人(明治四三年生)の話では「工女は手が水

虫、皮むけでなやまされ、製糸場おんなと軽んじられていた。」といえます。

昭和五年(一九三〇)発行の「西多摩村青年団報第二六号」に、「心のま、を」と題して田村志んがつぎの一文を書いています。

『製糸場おんな』おーその一言は私達女工の胸にどんなにかなしくまたどんなに淋しくひびくことごさいます。道を歩いても電車にのつても世の人はあらゆる侮辱と軽蔑の言葉を投げかけます。(略)何ゆえ工女がそれほどまでに卑しいのでしょうか。いかに大工場が軒をならべて立ってたとしても、働く工女がいなかったらどうでしょう。(略)我が国がもっとも重要な輸出品として生糸こそ女工の汗と油のたまものではないでしょうか。(略)工場生活をしているとも清き水晶の如き心にて高き理想を目標としていつちよくせんに進みましょう。』と力強い言葉が述べられています。

工女は自分たちの境遇を当然のこととして受け止め、糸引きに邁進していました。明治政府は文明開化、富国強兵のもと、富岡製糸工場の設立などにより、日本は世界一の生糸大国となりました。

西多摩村も下田伊左衛門や指田茂十郎らの先覚者により養蚕業が発展し、養蚕日本一を自負するようになりましたが、製糸工場でも働く工女たちに支えられていたのです。

《参考図書》 『羽村町史』

正俊閑栖未完成日記

裏の駐車場で開催した、水族館劇場の野外劇「アントロポセン（人新紀）」の空舟（うつほふね）が無事に終了致しました。演じた方々、観に来て下さった方々、応援した下さった方々に、感謝致します。1025人が来場されました。

三月

- 来山2900人。体重六十一キロ前後。
- 少し遅い誕生日祝を神楽坂「光石」でしていただく。淑子さん彭丹さんと。銀座モンブランで万年筆直し。 3/3
- 鎌倉のお客様を立川国際CCCに案内 3/5
- 田沢園川嶋さん桜苗木六十本植樹 3/6
- 土曜坐禅十二人。木彫教室九人 3/6
- 洪沢栄一『論語と算盤』読了。 3/7
- 土曜講座七月まで予定決める。 3/8
- 東墓地入口の大櫨、危険なので伐採。山門前両側の櫨も除去。代わりに山桜を植える。寺の景観が変わります。 3/9
- 写経の会二十人。本堂で般若心経。 3/11
- 土曜講座 映画監督の秋原北胤さんと水族館劇場の桃山邑さん。三十人の方々の聴講、皆さん熱心に聴く。 3/13

- 護持会・薬師講役員の方々に彼岸掃除、境内・墓地きれいになりました。 3/14
- 大船・塩之内科、定期検診 3/15
- 島田文庫長と西多摩文化交流プランについて相談。新聞など発送。 3/16
- お彼岸に入る。早朝坐禅会六時〜七時始まる。馬話眼科で眼の健診 3/17
- ミスミ建設・星野造園、山門前山桜植栽。西駐車場赤松植え。ミスミさんより建長寺の杉板奉納していただく。 3/18
- 山門前に赤しだけ桃植栽。灯笼移設。大仕事続く。墓参の人多し。 3/20
- 鎌倉 鈴木大拙松ヶ岡文庫役員会 次在建長寺で長尾宗務総長と懇談 3/23
- 砂川・林泉寺山内玄黙和尚の四十九日法要（大練忌）導師は五日市広徳寺・水口正倫師。 3/24・25
- 羽村市長選 不在者投票へ。次に鎌倉プリンスホテルで鎌倉教育会議 3/26
- 高崎さん、栗田さん、昨年植えた椿三〇〇本、桜六十本の点検確認作業に来て下さる。名前と成長をチェック。武蔵野の土地、鈴木土建と羽村リトルリーグに貸すために契約書、印押し。 3/27
- 裏の第二駐車場で水族館劇場が野外芝居をするため、近隣の方々への挨拶まわり。私と千代次さん四人で。和正和尚は皆さんと総代さんに挨拶まわり。 3/28
- 『禅文化』誌への原稿書き。 3/29

四月

- 裏の駐車場の平屋大片付け。水族館劇場の方、梅林父子、二十人で。 3/30
- 建長寺で鎌倉塾 講師は長尾宗務総長。坐禅は私。終わって去来庵で夕食会。 3/31
- 七一〇人の来山。体重は六十一キロ前後。春の文化展もお休み、花供養もできず寂しい春でした。でも皆元気いっぱいです。
- 水族館劇場 設営を開始。寝泊りは裏の平屋と会館そばの「由美」二階。 4/1
- 陣内秀信『水都東京』、黒田草巨『陶器』読了。健康体操十人の参加。 4/2
- 土曜坐禅会に千代次さんが参加 4/3
- 毎月第一日曜日の朝粥坐禅会、六時からつり鐘を皆でついて般若心経を唱え、禅堂で坐禅。八時から禅の作法でお粥を食べます。十五人の参加でした。 4/4
- 鎌倉から小笠原加純夫妻来山。手水鉢の水受けを作ってもらう。福生子供食堂の厚谷まゆみさんのお話しを拝聴。 4/5
- 四月八日は花まつり。御詠歌の方々と和正和尚で降誕会をして下さる。私は鎌倉の友人を接待で立国に行く。 4/8
- 西駐車場の庭園、中村九一さん句碑、牡丹植え。中村勝司家の寄付。孫二人と笥の初掘り。 4/9
- 山梨 小菅村の宝生寺。奈良憲雄和尚様の葬儀へ。二本木の渡辺和尚に連れて行

- つてもらう。僧堂の同級生 4/10
 - 写経の会十四人。NHKの水族館劇場のインタビュー。 4/11
 - ゴルフ 松山英樹マスターズで優勝。四日間テレビで観戦。堂々とした勝利、実に素晴らしい。明るい話し。 4/12
 - 五日市 星竹でバーベキュー 4/13
 - 建長寺で鎌倉禅研究会。講師は道津綾乃さんと高橋慎一朗先生。コロナ禍でも三十人の聴講。勉強は継続が大事。ありがたい。終了後尾崎で食事。 4/15
 - 佐々木閑先生『仏教の誕生』了 4/18
 - 城山三郎『雄気堂々』(渋沢)了 4/20
 - 建長寺で住職研修会。七十七人の僧侶が参加。やはり、勉強は大事。 4/28
- 【五月】**
- 1460人の来山。体重六十一キロ代。
 - 一日の土曜日なので、写経会十人。坐禅会十人。マスクをつけて。 5/1
 - 第一日曜日なので、朝粥坐禅会十三人の方々で、朝の坐禅と粥を楽しむ。 5/2
 - 水族館劇場の完成祝。客殿でささやかな食事会。二十五人。後、芝居の稽古、全員で劇場を作り、芝居もやる 5/2
 - 義姉 保坂さん金魚五〇匹、防火用水を兼ねた大鉢(六セット)に放す。 5/3
 - 鎌倉でオンライン平和会議 5/5
 - 川本慎自さん『中世禅家の儒学学習と科学知識』読了。面白かった。 5/8

- 羽村市チューリップ球根掘りに行くも、残念乍らコロナで中止。 5/9
- 中野祐司・新井政昭総代と水族館劇場の視察とコロナ対応の相談。 5/10
- 久しぶりに御詠歌講の練習。 5/11
- 寺子屋委員会 勉強会。水族館劇場の通し稽古を見学に行く。 5/13
- 鎌倉。大慶寺磯谷惠杲和尚の弔問に行く。鎌倉の修行道場の道友。塩之内内科検診。鎌倉禅研究会(梅沢恵・高橋悠介両先生)コロナ禍十五人の参加。終わって尾崎でノンアル食事会。 5/13
- 水族館劇場 初演。無事に始まる。観客五十人程。先者、ホッと。 5/14
- 船木園さん椿苗補充二十二本。持参して奉納して下さる。植えるのに終日かかる。 5/18
- 「お寺でヨガ」始まる。先生はハムリンの作者、園部多恵子さん。 5/20
- 土曜講座 和正和尚、谷中のお寺のお施餓鬼のため、私がお話し。元市議会議員瀧島愛夫さん、毛利嘉孝先生パンデミックの話。二十五人参加。熱心に聴講 5/22
- 水族館劇場の挨拶状、チラシなどを寺近くの福生方面家々にお届けする 5/24
- 武蔵境 船木園さんにお礼に行く。帰りに立川でジャケット、レコード、本など求める。 5/24

- 佐藤弘夫『人が死んだらどこへ行けばいいの』読了。昔から今まで 5/27
- 羽村スポーツセンターでコロナワクチン注射、あっけないスムーズさ。異変ナシ。 5/30
- 水族館劇場 今晚で終演。百三十人越えの観客。無事終了、ありがたし 5/31
- 今年の春も、コロナの大騒動が続いていますが、世間はわりと冷静、私たちでできることはマスクをし、密集をさげてください。私の日常も、和正和尚が寺の法務を全てしてくれましたので、自分の日課を淡々と過ごしています。勉強と健康管理、坐禅は着実に毎日継続しています。寺の境内の作務(植木の手入れ、除草、片付け)はほぼ毎日。寺が綺麗になっていくのは気持ちいいです。

宗禅寺観音募金

(令和3年2月15日～令和3年6月24日)

皆様からの募金、お費錢をこのように使っています。ご協力ありがとうございます。

前回繰越	18,279円
収入	75,622円
支出	80,000円
内訳	20,000円 羽村市社会福祉協議会
	20,000円 あしなが東日本大震災遺児基金
	20,000円 西東京臨済会災害支援部
	20,000円 建長寺観音募金

繰越 13,901円

和正和尚日單

三月からポツポツと客殿での法要後のお食事が見られましたが、感染者増加によりぱったりと途絶えました。

春の文化展は今年も中止。花祭りもコンサートも中止となりました。

○青梅新町東禅寺 後任が決まるまで東禅寺のご住職が林泉寺の兼務住職になられます。

林泉寺の役員さん、本寺廣徳寺のご住職が東禅寺さんに出向き、兼務住職就任へのごあいさつ。私も同席。お茶出し等。3/9

○役員会 車庫で消防の役員会。四月から新体制。入退団式等の打ち合わせ予定も、開始予定時間に火災発生し、出勤。一軒全焼。3/10

○東日本大震災 震災から十年。写経会メンバーで鐘を撞いて読経。3/11

○消防 上水町内会の防火水槽充水作業。なんと水槽が空っぽでした。一回では充水できず。次回に持ち越し。3/12

○土曜講座 映画監督秋原北胤さんと水族館劇場の桃山さん。秋原監督はご自身の映画『一遍上人』のお話し。桃山さんは水族館劇場の立ち上げ時のあらましからお話し。野外劇への情熱を語って下さいました。私も一遍上人。3/13

○護持会清掃 護持会と薬師講役員の皆様によるお彼岸前の清掃。墓地に上がっている枯れている供花を回収。護持会の会長が中根要さんから中根一明さんに。要さんは故新井作一さんの後を受けて会長に。私がか

からずっと会長を務めて下さいました。ありがとうございました。3/14

○卒園式 幼稚園の卒園式へ。島田理事長先生初め、鬼塚園長先生、花音を三年担任して下さいだった森先生、瑠理花の担任田中先生などなど、たくさんの先生方にお世話になりました。ありがとうございます。3/18

○林泉寺 山内玄黙和尚さんの四十九日忌法要の仕度へ。後任のご住職が入られるまでは、近隣のお寺で支えていきます。3/24

○林泉寺 山内玄黙和尚四十九日忌法要。導師は五日市広徳寺さん。3/25

○水族館劇場 水族館劇場がいよいよ公演準備に入りました。寝床となる裏の家の中のガラクタをみんなで運び出し、整理。電気、ガス等手続き。近所と寺総代さんへあいさつ回り。3/30

○消防訓練 夜に再び上水町内会の水槽充水作業。四月から新体制。3/31

○ルリカノ 家族で長津田のこどもの国へ。桜が散り始める中、天気よくのびのび遊べました。4/1

○水族館劇場 いよいよ劇場設営を開始。五月の公演に向けて始動。4/2

○宗禅寺 谷中の兄の家族が初めて羽村に遊びにきてくれました。長男正宗君はルリカノと同級生。みんなでカレーを食べ、羽村動物園へ。4/2

○消防入退団式 ゆとろぎで規模縮小し挙行されました。一分団は新入団員三名。私は今期から羽村市消防団団旗手に。4/4

○建長寺 本山の布教師会の会議へ。六月の法話大会にて新たな試み。4/5

○小学校入学式 ルリカノ小学生になるの巻。

体育館で入学式の後、教室へは保護者一名のみということで、私は校庭で待ちぼうけ。二人は別々のクラスになると事前には聞いていましたが、学校側のご判断で同じクラスになりました。双子ちゃんはルリカノいれて三組でみんな同じクラス。担任は杉崎先生。六年間お世話になります。4/6

○寺屋委員会 中野喜一さんの『鮎魚の歴史』を読む。4/7

○花祭り お釈迦様生誕祭。久しぶりに御詠歌の皆様が集まって下さり、詠って下さいました。天気に恵まれ、本堂正面の外で法要。甘茶。4/8

○眼医者さん ルリカノを眼医者に連れていく。視力が弱いことを以前指摘されており、先生の診断を仰ぐことに。眼鏡が必要とのことでしたが、二人とも眼鏡を泣いて嫌がる。日常生活の中では、親としては眼が悪いことを感じる時がなく、眼鏡不要とも思っていたので、小学校生活で支障が出ないか経過を見ていくことにしました。4/9

○消防 午後少し春のお祭りの警戒。4/11

○ルリカノ 学校終わってから、淑子ばあばと綾子さんと一緒にお昼に石川酒造へ行っていました。私は留守番。一人で留守番の時は料理を楽しみます。4/14

○書道教室 毎月一回、横浜から先生が書道のお稽古に来てくれています。4/15

○消防 夜に無線通信訓練。4/15

○土曜講座『中里介山忌』 宗禅寺にて法要。菊池玉雲さんが講談『大菩薩峠』に挑戦。完全なオリジナル書き下ろし新作を発表してくれています。島田秀男文庫長の中里介山についてのお話

- しと、羽村出身昭島在住の檀信徒・雨倉寿久さんのお話し。私は日蓮さん。 4/17
- 三島・龍沢寺 入制大撰心の提唱へ。提唱後、後藤榮山老師と懇談。林泉寺の昔のことも聞いてみる。三島の道場には新入生二人。 4/19
- 消防 続・防火水槽充水作業。前回より水かさが増っているので、中で漏れていることが判明。 4/21
- クラシックバレエ ルリカノのバレエ発表会。緊急事態宣言発令のため、急遽二十五日の予定を一日前倒しにて二十四日行うことに。私はお寺で法要を済ませて夕刻から福生市民会館へ。子供たちは朝から。本番終了二十一時。一日お疲れ様でした。 4/24
- 代休 バレエ発表会のあった土曜日は元々授業参観。コロナで参観はなくなりましたが、月曜日が代休に。家族で相模湖へ。平日といっこともあり、ガラガラ。 4/26
- 消防 武蔵野小学校で二年生が消防車の写生会。消防車で小学校へ行き、耐火服を着てモデルになる。 4/27
- 住職研修会 本山での研修会。正俊和尚も。一日講義を拝聴。 4/28
- 消防役員会 部長以上で役員会。緊急事態宣言下における消防団活動について、羽村市消防団本部からの通達事項を皆で確認。訓練については条件付きで通常活動が復活。 5/1
- 朝粥坐禅会 緊急事態宣言下でも坐禅と写経は継続開催。 5/2
- 谷中 ルリカノ綾子さんと谷中の実家へ。お墓参り。兄家族と上野公園へ。動物園は休園中ですが、なぜかボート乗り場は

- 営業していました。みんなで不忍池でスワンボート。 5/4
- 保護司 午前中、羽村駅西口会議室にて羽村分区総務部会。今年度より総務部。今まで市役所にて行っていた活動資料の作成等、様々な作業が分区に移管となつたようです。内容を色々確認。 5/5
- 書道 毎月一回のお稽古 5/10
- 御詠歌 活動を休止していた御詠歌講の皆様が、久しぶりにお稽古を再開。お稽古後のお茶タイムはなし。皆さんお元氣そうで何よりです 5/11
- 寺子屋委員会 中野喜一さんの『藍染め』、雨倉久次郎さん『川崎歴代統鑑』を読み進める。 5/12
- 消防 夜の訓練も、緊急事態宣言で動物園駐車場は使用できず。 5/12
- 近所回り 緊急事態宣言あるも、水族館は予定通り開演することに。劇場ご近所の家々方に改めて挨拶周り、招待券を配布夜のお稽古の音や声も大きく、ご迷惑をおかけしているも、ネガティブなお声はあまりなく、有難い限りです。 5/14
- 水族館劇場 いよいよ公演開幕。綾子さんと二人で観劇。ワクワク感が凄い。三十一日まで全十四公演 5/14
- ルリカノ 娘たちが淑子ばあばと綾子さんと水族館劇場を観劇も、怖くなって途中退席…… 5/16
- 腰痛 五月頭から腰が不調。治るどころか前よりひどくなったので渡辺整形へ。原因はいま一つ判明せず。背骨のくびれが普通の人より少なく、まっすぐになっているため、腰の筋肉に凝りがあるらしい 5/17

- いきいきヨガ お寺でヨガが始まりました。毎月第一、第三木曜日午前十時〜十一時です。ご指導は、園部多恵子さん。羽村市のゆるきやら、ハムリンをデザインされた方です。 5/20
- 消防 夜の訓練 5/20
- 谷中 谷中のお施餓鬼法要へ。夏の暑さを避け、毎年五月にお施餓鬼しています。緊急事態宣言中にかかわらず、和尚さん十名檀信徒五十名ほど。檀信徒皆様にお出ししている昼食は、さすがになし。 5/22
- 水族館劇場 ついに舞台に立つ。今回は天草四郎を支える農民役。顔見世芝居から登場。夜の都合がつく時に出演。歌の歌詞が混ざってしまった、意外と覚えるのが難しい。 5/23
- 広徳寺 砂川林泉寺さんの件で、東禅寺さんと広徳寺さんへ。 5/24
- 消防 車庫上の物置きの中を整理。 5/28
- 水族館劇場 本日で千秋楽。14公演で1025人が観劇。結局私は半分の7回に出演。セリフ2回間違えた…… 5/31
- 横田基地 坐禅会にきている横田のスーザンさんのお招きで、ルリカノ綾子さんと4人で横田基地へ。ボーリングとランチ。中のスーパードお買い物。基地内をドライブ。間近で見ると、さすがに滑走路が広くて長い。オスプレイも思ったより大きかった。スーザンご一家は6月一杯でアメリカに帰国されます。 6/6
- 建長寺 本山の法話大会。「大道無門」でお話し。今回はお題を与えられての法話。大道無門、法話にするには難しかった…… 6/12

土曜講座のお知らせ

毎回ほぼ三千人の方がお見えます。みんないろいろな文化を学びましょう。どなたでもご参加できます。予約不要、お茶代三〇〇円です。

◆第五十六回 七月十日(土) 十三時～十六時 仏教講座「日本仏教史―明菴栄西禅師―」 住職 高井 和正

・異説 多摩川上流水源地の歴史 日の出町平井在住 岩田 基嗣さん

・自分の死後をどうするか 彩プロダクツ代表 大西 克幸さん

◆第五十七回 八月七日(土) 十三時～十六時 仏教講座「日本仏教史―室町時代の仏教―」 住職 高井 和正

・ヴィオラ演奏 田村 しおりさん

・ニレレビはむら制作 漆と生きる―漆工 芸家・並木恒延―を一緒に見ましよう

・お寺でこころの相談室報告 ハムサさん

◆第五十八回 九月十八日(土) 十三時～十六時 仏教講座「日本仏教史―休さん―」 住職 高井 和正

・「羽村の文化その一―川崎村―」 宗禅寺文庫長 島田 秀男さん

・トルコの吟遊詩人の歌と音楽・楽器 羽村玉川町在住

※サズとはトルコの伝統的な弦楽器です サズ奏者 藤井 良行さん

鎌倉禅研究会のお知らせ

七月の講師が青木先生から建長寺の宗務総長長尾さんに代わりました。予約不要、入山料五〇〇円、資料代五〇〇円。会場は鎌倉建長寺です。お出かけ下さい、お待ちしております。

◆第七十二回 七月八日(木) 十三時～十六時 佐賀県に残る臨濟禅・白蓮・八幡・時頼伝説 建長寺調査員 鈴木 佐 先生

・北条時頼の「鉢の木伝説」をめぐる 建長寺派宗務総長 長尾 宏道 和尚

◆第七十三回 八月二十六日(木) 十三時～十六時 都市鎌倉の成立過程―頼朝の時代― 鎌倉歴史文化交流館学芸員 大沢 泉 先生

・中世鎌倉の禅院・律院と雲版 法政大学助教授 大塚 紀弘 先生

◆第七十四回 九月十六日(木) 十三時～十六時 清拙正澄の大鑑清規 禅居院住職 山名田 紹山 和尚

・鎌倉の禅宗と弁財天 長谷観音ミュージアム首席学芸員 三浦 浩樹先生

◆第七十五回 十月十三日(土) 十三時～十六時 鎌倉の禅宗と弁財天 長谷観音ミュージアム首席学芸員 三浦 浩樹先生

・鎌倉の禅宗と弁財天 長谷観音ミュージアム首席学芸員 三浦 浩樹先生

◆第七十六回 十月二十日(土) 十三時～十六時 鎌倉の禅宗と弁財天 長谷観音ミュージアム首席学芸員 三浦 浩樹先生

※坐禅会と写経会、土曜講座は継続的に開催しています。

●朝粥坐禅会…毎月第一日曜日 朝6時～8時半 一日の始まりに坐禅。禅の食事の作法でお粥をいただきます 7/4 8/1 9/5 10/3

●土曜坐禅会…毎週土曜日子供:18時～19時 大人:19時半～20時半 ゆったり繰り返す腹式呼吸。呼吸が調うと心も調います

●お盆早朝坐禅会…7月13日～16日毎朝6時～7時。予約不要。鐘を撞いて、般若心経をお読みしてから坐禅をします。

●土曜講座…毎月一回の勉強会。13時～16時 地域文化の共有と創造を目指し、地域伝統を後世に。

●写経会…毎月1日、11日、21日、13時～15時 般若心経の写経をしています。支度、片付けは全員で。自分のペースで一文字一文字丁寧に。

●御詠歌…毎月第1・3火曜日 1時半～3時 指導:高井淑子

●手打うどん教室…現在2クラス開講中。月一回。講師:島田辰夫先生

●いきいきヨガ…毎月第1、第3木曜日 10時～11時 予約不要 ¥500 大きめのバスタオル要持参 講師:園部多恵子さん <https://www.instagram.com/tae.yoga/>

○木彫教室…毎月第1・第3土曜日 13時～16時まで 講師:新井達矢先生 見学できます 仏像や能面を自分で彫ってみませんか? 月謝5000円(道具、材料費は要別途) 新井達矢先生ブログ:<https://ameblo.jp/tapazyia-1982/>

○俳句教室…毎月1回、適宜。問い合わせ先:中野つたえ ☎554-2444

○尺八吹禅の会…毎月第1、第3月曜 夜7時半～9時頃 坐禅15分、練習60分、問い合わせ:坂井陵童 ☎554-3273

○介護予防体操…健康体操の集いです。直接、禅センターにお越し下さい 毎週金曜日14時～16時

○お寺deこころの相談…タロットによる心理セラピーです ハムサまで 毎週日曜日13時～18時 要予約 090-6792-4784

○新聞サロン…毎月第2、第4土曜日13時～14時 新聞を楽しく読んで世界を広げよう。活字から読む力を。お子様の参加大歓迎です。要予約 090-6549-0751 講師:鹿野川喜代美さん 042-554-7343 まで

○女性サンガの会・薬師講・寺子屋委員会・護持会 ―活動中です―

○宗禅寺禅センターをお使い下さい。 ■各教室の会場: ●は宗禅寺 ○は禅センターです

宗禅寺毎月の活動

―お寺で新たな自分の発見を―